

記 録

岡山県内での繁殖期における 亜種リュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* の観察記録

和気町 齊木 孝

Observation record of Ryukyu Ashy Minivet *Pericrocotus divaricatus tegimae*
in breeding season in Okayama Prefecture, Japan

Takashi SAIKI, Wake-Town

キーワード：リュウキュウサンショウクイ，岡山県，繁殖期

はじめに

日本のサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* は、日本鳥類目録改訂第6版(2000)によると、亜種サンショウクイ *P.d. divaricatus* (以下、サンショウクイ) と亜種リュウキュウサンショウクイ *P.d. tegimae* (以下、リュウキュウサンショウクイ) の2亜種に分けられ、前者は本州・四国・九州で夏鳥、後者は奄美・琉球諸島で留鳥、九州南部(熊本・宮崎・鹿児島)で漂鳥とされていた(日本鳥学会, 2000)。

近年、リュウキュウサンショウクイは分布を拡大し、2000年代初頭には近畿地方でも記録され、2010年までに九州北部・四国・紀伊半島においても確認されるようになり(三上ほか, 2011)、日本鳥類目録改訂第7版(2012)では、従来からの地域に加え、九州南部(大分・熊本・宮崎・鹿児島)や四国の一部(愛媛・高知)で留鳥、福岡・佐賀・長崎・奈良・広島・香川でも漂鳥の扱いとなった(日本鳥学会, 2012)。

さらに、2010年代には近畿地方や関東地方における報告例が増え、2020~2021年には少なくとも1例確認された県は岡山を含め31県にまで広がっており(三上, 2021)、神奈川県では繁殖も確認

されている(八木, 2020)。

岡山県内でのリュウキュウサンショウクイと分かる記録は、日本野鳥の会岡山県支部報によると、2016年10月(赤磐市)が最初で、その後は2019年12月(岡山市中区)、2021年1月(岡山市北区、総社市)及び2月(笠岡市)となっており(日本野鳥の会岡山県支部, 2017, 2020, 2021)、また、認定NPO法人バードリサーチ(以下、バードリサーチ)からの情報提供では、2018年2月(和気町)、2019年1月(岡山市北区)、2021年1月(高梁市)といずれも非繁殖期における報告であった。今回筆者は県内(和気町)で6月という繁殖期において確認したことから、今後の繁殖動向を把握する上で参考に資するものと考え、その概要を報告することとした。

確認概要

2021年6月20日午前9時20分頃、和気町南山方の三保高原(標高約370m)において、知人3名との探鳥後に林縁道路脇で休憩中、知人の1人が5m程先にある低木の地上約3mの枝に止まる鳥を見つけ、筆者に教えてくれた。肉眼で見ると2羽の鳥が探餌している様子で、色彩からコサメビタキ *Muscicapa dauurica* を疑ったが、すぐに「ヒリリ

リ」という声とともに飛び立って付近の葉の繁ったコナラ *Quercus serrata* の高木に移った。その声は張りや声量に乏しく、同所でよく聞いていたサンショウクイの声（比較的遠くまで響く張りのある力強い声量）とは異なる印象だったので、リュウキュウサンショウクイを疑い、樹木の高層で動く鳥影を追いながら枝葉の隙間からかろうじて写真撮影できた（写真1~4）。

なお、観察場所は西側斜面の林だったため、時間的には樹冠部を除いて日陰状態であった。

2羽は撮影して数分後にはどこかに飛び去った。当日の16時頃に再度現地で探したが、声を聞くことはできず、確認できなかった。

また、サンショウクイは同所で少なくとも6月15日及び23日に鳴き声で確認している。

その両日に付近で確認された鳥は、キジバト *Streptopelia orientalis*, ホトトギス *Cuculus polio-*



写真1. リュウキュウサンショウクイ
(撮影場所:和気町)



写真2. 写真1の拡大



写真3. 写真1と同一個体の拡大



写真4. リュウキュウサンショウクイ
(写真1と同一個体かどうか不明)

cephalus, トビ *Milvus migrans*, コゲラ *Dendrocopos kizuki*, サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*, モズ *Lanius bucephalus*, ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*, ヤマガラ *Poecile varius*, ツバメ *Hirundo rustica*, ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*, ウグイス *Cettia diphone*, ヤブサメ *Urosphena squameiceps*, エナガ *Aegithalos caudatus*, センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*, メジロ *Zosterops japonicus*, キビタキ *Ficedula narcissina*, キセキレイ *Motacilla cinerea*, カワラヒワ *Chloris sinica*, イカル *Eophona personata*, ホオジロ *Emberiza cioides* であった。

周辺の植生はコナラ, クヌギ *Quercus acutissima*, クリ *Castanea crenata* などの広葉樹やスギ *Cryptomeria japonica*, ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* の小規模植林地やアカマツ *Pinus densiflora* が比較的多く見られた。

亜種を判断した理由

前述のとおり鳴き声の違いは感じたが、写真を確認したところ、日陰による影響を勘案しても、喉の白色に対して明らかに胸は灰色で、サンショウクイ（写真5）のような様な白色には見えなかった。



写真5. サンショウクイ（撮影場所：兵庫県）

そこで、リュウキュウサンショウクイの調査研究を行っているバードリサーチに写真判定を依頼したところ、「額の白斑が狭いこと、体や翼が亜種サンショウクイに比べて短くみえること、胸部が真っ白ではなく黒っぽくすすけたようにみえることなどから、亜種サンショウクイではなく亜種リュウキュウサンショウクイだと考えられる。」との回答を得たのでリュウキュウサンショウクイと判断した。

なお、雌雄判定については、2羽いたうちの1個体しか撮影できていない可能性があるため、材料不足で行えなかった。

まとめ

近年国内で分布を拡大しているリュウキュウサンショウクイは、岡山県内ではこれまで非繁殖期における記録はあったが、今回6月という繁殖期に観察されたことから、既に繁殖しているか、あるいは今後繁殖する可能性が高い。神奈川県での繁殖記録では、スギ・ヒノキの植林地内で4月上旬に造巢、5月中旬に孵化し下旬に巣立ちしているので（八木，2020），留鳥化すれば夏鳥のサンショウクイが渡来する前に繁殖行動が見られる可能性があ

り、これからは3月下旬頃から「ピリリリ」という声には注意を払う必要がある。

なお、バードリサーチでは、リュウキュウサンショウクイとサンショウクイの分布状況の変化をつかむために情報収集を行っているので（サンショウクイプロジェクト）、どちらの亜種でも観察された方は、その観察場所や状況についての情報提供に是非ご協力頂きたい（サンショウクイプロジェクトのURL：http://www.bird-research.jp/1_katsudo/sanshokui/index.html）。

謝 辞

今回の報告を取りまとめるにあたり、バードリサーチの三上かつら氏に助言をいただいた。記して謝意を表す。

引用文献

- 日本鳥学会，2000. 日本鳥類目録改訂第6版，帯広。
- 日本鳥学会，2012. 日本鳥類目録改訂第7版，三田。
- 日本野鳥の会岡山県支部，2017. 鳥信，野鳥おかやま（219）：13. 日本野鳥の会岡山県支部。
- 日本野鳥の会岡山県支部，2020. 鳥信，野鳥おかやま（237）：10. 日本野鳥の会岡山県支部。
- 日本野鳥の会岡山県支部，2021. 鳥信，野鳥おかやま（243）：6. 日本野鳥の会岡山県支部。
- 日本野鳥の会岡山県支部，2021. 鳥信，野鳥おかやま（244）：8. 日本野鳥の会岡山県支部。
- 三上かつら・植田睦之，2011. 西日本におけるリュウキュウサンショウクイの分布拡大. Bird Research 7:A33-A44.
- 三上かつら，2021. 冬のサンショウクイは何者？～リュウキュウサンショウクイの分布“相当”拡大. Birder, 35(8):42-43.
- 八木茂，2020. 神奈川県秦野市におけるリュウキュウサンショウクイの造巢から巣立ちまでの観察. BINOS, 27：1-10.